

令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

<調査研究報告書タイトル>

放課後児童クラブに登録した児童の利用実態及び放課後児童クラブと放課後子供教室の一体型による運営実態に係る調査研究

<実施主体名>

みずほ情報総研株式会社

調査概要

以下の調査を通じて放課後児童クラブの「交付金算定上の「児童の数」と「利用児童数（実績数）」を把握し、これらに間に差異が生じている場合はその要因、また、放課後児童クラブの職員配置についての考え方等の実態把握を行った。加えて、一体型の放課後児童クラブ及び放課後子供教室の効果的・効率的な運営方法等を調査した。

- ・放課後児童クラブを利用する児童の利用実態に関する調査（自治体向けアンケート）
- ・一体型の放課後児童クラブ及び放課後子供教室に関する調査（自治体向けアンケート）
- ・放課後児童クラブと放課後子供教室の一体型実施の推進に関するヒアリング調査

調査結果の主な概要

○放課後児童クラブの登録実態についての傾向

- ・放課後児童クラブにおける令和元年度各月1日時点の登録児童数平均値は、42.56人。
- ・令和元年8月は他の調査月（令和元年5月、令和2年2月）よりも登録児童数が多くなる放課後児童クラブが多いなど、登録児童数に変化がみられた。また、令和2年2月の登録児童数は他の調査月と比べて少なくなっていた。

○交付金算定上の「児童の数」と実際の利用児童数（利用実績数）の間の差異と原因

- ・運営形態に関わらず交付金算定上の「児童の数」と利用児童数（実績数）は「ほぼ同じ（差異は2割未満）」と回答する割合が半数を超えた。
- ・令和元年度の交付金算定上の「児童の数」の平均値は、39.97人。1日当たりの利用児童数（実績数）の平均値は、34.38人。両者の差異は、5.59人。
- ・本調査で把握した6,274件の放課後児童クラブ（支援の単位）のうち、交付金算定上の「児童の数」よりも1日当たりの利用児童数（実績数）の方が少ない（2割以上少ない）放課後児童クラブは3,860件（6割程度）。
- ・原因として回答が多かったのは「家庭の事情による欠席」「子どもの体調不良による欠席」等。政令指定都市の放課後児童クラブでは「他事業の利用による欠席」も多い。

○一体型の放課後児童クラブ及び放課後子供教室の運営状況

- ・両事業の運営団体「同じ」が4割程度、「異なる」が6割程度。活動場所は「いずれも小学校内にあるが、活動場所は異なる」、放課後児童クラブを利用する子どもの放課後子供教室への参加方針は「放課後子供教室への参加時間帯を設定」が各7割。

○一体型実施の効果と課題

- ・効果は「放課後児童クラブに通う子どもの生活・学習の体験を広げることができた」「放課後児童クラブに通う子どもと通っていない子どもと一緒に過ごす機会を提供できた」「いずれも学校内で実施されるため、子どもが安全に過ごすことができるようになった」等。
- ・課題は「小学校内での放課後児童クラブ（または放課後子供教室）活動場所の確保が困難」「両事業間の責任範囲が不明確」「放課後子供教室スタッフの増員が必要」等。